

こんにちは！

めぐりん菜通信をお読みいただきありがとうございます。

今月号は、堆肥化施設「ヒラテ産業」様とめぐりん菜たい肥の紹介、まだまだ続く「教えて！旬の野菜・果物」でお届けいたします。季節は晩秋から冬の走り！暖かい日、寒い日が不安定で体調管理が難しい時期です。お互い注意しましょう。

(担当：齊藤)

めぐりん菜堆肥化施設「ヒラテ産業」様 ご紹介



めぐりん菜食品リサイクルループで残渣(生ゴミ)の堆肥化という重要な工程を担っていただくのがヒラテ産業様(刈谷市小垣江町)です。

農水省の再生事業計画登録(食品リサイクルループ)でユニ(株)様とともに全国第1号の認定を取得されております。

めぐりん菜たい肥は、食品の残渣に対して1,2倍の容量の籾殻等を混合して、切り返しながら3ヶ月間発酵。発酵温度が常温になったら、完熟堆肥のできあがりです。

完熟のため、すぐに種蒔き、苗植えが可能です。肥料ではなく堆肥の位置づけです。作物をつくる「土作り」には最適ですが、肥料成分(窒素・リン酸・カリ)は不足しますので補充が必要です。なお、右の写真がヒラテ産業、食品リサイクルリーダー：杉岡様です。堆肥の管理をいただいています。



完全密閉式堆肥化施設

「教えて！旬の野菜・果物」

蜜柑(みかん)



早生(わせ)



晩生(おくて)

「蜜柑」というと「愛媛みかん」など、ブランド名で販売されることが多いですが、すべて「温州みかん」です。

さて、今回は少し違う切り口で進めたいと思います。左の写真は早生の代表品種「宮川早生」と晩生の代表品種「青島温州」を同じ日に撮影したものです。早生は10月から12月、晩生は12月から3月にかけて出荷されます。野菜・果物の「旬」は品種、もつとえば、農地、温度によっても大きく変わります。「旬を美味しく食べる」とよく言われますが、本当の旬の見極めは、非常に難しいのが現実です。

なお、この宮川早生を温室栽培したのが、蒲郡温室みかん。全国第2位の生産量です。5月頃から出荷され、付加価値を高めます。

キウイフルーツ



なぜ、旬の記事にキウイ？と思われると思いますが、日本でも栽培されています。温州みかんの余剰対策の転換作物として、収穫の時期が同じということで奨励されました。残念ながら30年前では、キウイの味覚が評価されず、衰退しましたが、今、栽培農家は少しずつ増えています。

キウイは、追熟が必要な果物です。スーパーでは、未熟気味での販売ですが、りんごと一緒に袋に入れるとエチレンで追熟が進みます。鼻の頭の固さになったら食べごろです。